

JR釧網線維持活性化実行委員会 地域公共交通再構築調査事業の取組状況

●事業の結果概要①

繁忙期の一部普通列車増結・指定席導入実証実験の実施

・繁忙期の一部普通列車に列車を増結するとともに指定席を設定し、アンケート調査を実施する

○実施期間：7月1日～8月31日

○実施概要：4728D（釧路駅発8時52分発）および4727D（網走駅15時16分発）を2両編成で運行するとともに、指定席18席を設定（指定席導入区間は釧路～網走間）

○目標：①指定席利用 15人／日 ②4728D、4727D合計利用人員 130人増（前年度比）

○実績：①指定席利用 11.4人／日 ②4728D、4727D合計利用人員 1,071人増

○調査結果：調査回答数431件

※目標を達成できなかった要因として、夏休み前の利用実績が低く7月及び8月の災害による旅行控えが影響した。

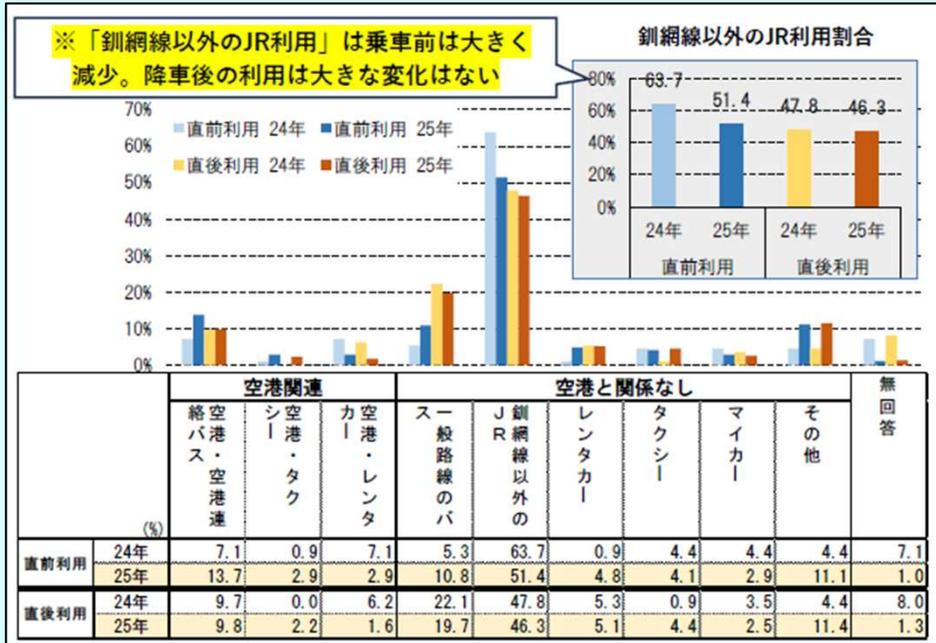
【各駅における乗車・降車割合】

	サンプル数	降車駅															
		釧路駅	東釧路駅	釧路湿原駅	細岡駅	塘路駅	茅沼駅	標茶駅	摩周駅	美留和駅	川湯温泉駅	緑駅	清里町駅	知床斜里駅	止別駅	原生花園駅	網走駅
全体	315	35.6	0.6	1.9	0.3	4.4	0.3	0.3	2.9	0.3	3.8	0.3	0.3	6.0	0.3	1.9	40.6
乗車駅	釧路駅	172		3.5	0.0	8.1	0.6	0.0	5.2	0.0	4.7	0.6	0.0	8.7	0.6	2.3	65.7
	釧路湿原駅	1	100.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	塘路駅	4	75.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0
	茅沼駅	1	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	標茶駅	3	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	摩周駅	9	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	88.9
	美留和駅	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	川湯温泉駅	7	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	71.4
	緑駅	3	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
	札弦駅	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	100.0	0.0
	知床斜里駅	21	85.7	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8	0.0		0.0	0.0	4.8
	浜小清水駅	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0
	桂台駅	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0
	網走駅	89	88.8	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	1.1	3.4	0.0	1.1	2.2	0.0	1.1

JR釧網線維持活性化実行委員会 地域公共交通再構築調査事業の取組状況

●事業の結果概要①

【釧網線利用前後の利用交通】



【釧網線利用経験／利用回数】



- ・昨年度のアンケート調査結果から今年度は指定席を全区間（釧路～網走間）に設定した。その結果、道外客の割合が増加し9割となり、利用者の9割が旅行目的で釧路～網走までの乗車が7割、網走～釧路までの乗車が9割の結果から当該事業が公共交通を利用した周遊型観光への転換に影響を与えたといえる。
- ・昨年度よりも初めて利用する人の割合が半数を超えた結果から、当該事業が釧網線を利用するきっかけとなったといえる。
- ・指定席料金（840円）の調査では受容感に対する支払限度額の平均が1,235円となり、昨年金額（1,200円）から若干増大し、設備・サービスが良くなればもっと高くてもよいとする回答が2割程度となっている。
- ・釧網線に指定席があれば今後も利用するが8割以上で道外客よりも道内客の方が大きく特に沿線居住者で昨年より急増しており、利用区間の拡大効果と見てよい。
- ・利用者が期待することとしては、沿線見どころのガイド放送・ガイドブックの提供・記念乗車証の提供は高い水準となった。

●事業の結果概要②

釧網線フリーパス販売実証実験の実施

- ・釧路～網走間3日間乗り放題のフリーパス乗車券を設定し、モニター募集により、フリーパスを本格的に販売するための利用ニーズや金額等の意向についてアンケート調査を実施する

○発売期間：令和7年9月1日～令和8年3月13日 ※予算額に到達次第発売終了

○利用期間：令和7年9月1日～令和8年3月15日

○購入方法：フリーパス専用画面から必要事項を入力したうえモニター登録・購入

○発売価格：4,500円（こども半額） ※発売価格は助成後の金額（助成額は4,500円）

○有効期間：3日間

○発売箇所：フリーパス専用WEBサイト

○フリーエリア：釧路～網走（普通列車自由席が利用可能）

○アンケート方法：モニター登録・購入と同時にWEBにより回答

○目標：モニター数1,991人

○実績：モニター数323人（令和8年1月6日時点）

※昨年度は釧路駅、標茶駅、摩周駅、知床斜里駅、網走駅の窓口や券売機で発売
今年度は「JR北海道ePass」で発売(web限定販売の電子チケット)

※昨年の販売実績は1月が280枚、2月が273枚で冬の観光シーズンの実績が伸びることから、本年1～3月の推移を見守りたい。

- ・初めての購入が約7割、釧網線の利用が「初めて」が約4割、購入目的の約9割が「観光目的」であったという結果から、新規層の獲得や観光需要の更なる掘り起こしに有効なことが実証された。
- ・設定があれば今後も利用すると回答したのが9割以上という結果から、一過性の施策ではなく、継続的な需要創出につながる施策であることが実証された。
- ・利用者の約6割が2泊以上の旅行行程で、約8割がフリーパスを2日以上利用したとの回答結果から、当該事業が釧網線の利用促進にとどまらず、周遊・滞在型観光への転換のきっかけとなり、沿線地域での観光消費の拡大に寄与しているといえる。
- ・購入費はもっと高くてもよい・設備・サービスが良くなればもっと高くてもよいがあわせて3割以上もあった。

●事業の今後の改善点(特記事項含む)

繁忙期の一部普通列車増結・指定席導入実証実験の実施

- ・アンケート調査結果では1人旅の割合が最多であり、予約システムの改善(予約のシートマップにボックス席や進行方向に対して後ろ向きなる座席の表示)やテーブルの設置、沿線見どころのガイド放送・ガイドブック・記念乗車証の提供は高い水準で期待されており検討が必要である。
- ・昨年より1ヵ月以上前倒しで7月から実施したが、夏休み期間前の実績が低く、設定期間の再検討が必要である。
- ・下り(網走発)は上り(釧路発)の約76%の実績であったため、網走駅、斜里駅等での事前案内の強化により更なる利用の向上が見込める可能性がある。

釧網線フリーパス販売実証実験の実施

- ・通年設定に向けて適正価格の設定、他の公共交通を含めた設定や日数の見直しにより「観光利用」の利便性をさらに高める検討が必要である。
- ・更なる販売枚数の促進を図るため、情報発信の手法や道外客に向けての告知を充実させ、更なる認知拡大に向けて改善が必要である。

●事業実施の適切性

計画通り事業は適切に実施された

●地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果

- ・事業は計画どおりに実施されている。
- ・繁忙期の一部普通列車増結・指定席導入実証事業について、目標値は達成できなかったものの、新規需要創出等に大きく寄与しており、アンケートから得られた具体的ニーズを分析し、利用者が納得できる価格設定やサービスの向上、戦略的な情報発信により、さらなる利用客数増をご検討いただきたい。
- ・フリーパス販売実証について、通年設定の実現には適正な価格設定に加え、他交通機関との連携や運行日数の見直しなど、観光客の利便性を高める仕組みを構築し、道外客へ向けた認知度向上施策をご検討いただきたい。
- ・今後、持続可能性と利便性の高い地域公共交通への再構築に向けて取り組んでいただきたい。